

1 単元名 器械運動(跳び箱運動)

2 単元の目標

- (1) 基本的な支持跳び越し技を安定してできるようにするとともに、(その発展技)をできるようにする。(技能)
- (2) 運動に進んで取り組み、(約束を守り助け合って運動をしたり)、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。(態度)
- (3) 自己の能力に適した課題を知り、その課題に応じた練習の場や(段階)を選ぶことができるようにする。(思考・判断)

3 運動の一般的特性

- 跳び箱運動は、いろいろな跳び方で跳んだり、跳び箱の条件を変えて跳び越したりして楽しむ「達成型」「克服型」の運動である。今できる跳び方で、いろいろな高さや向きの跳び箱をより上手に跳び越したり、できない技に挑戦したりして楽しむことができる。また、「助走―踏切―着手―着地」という一連の動作をリズムカルに行うことが大切になってくる。スピードにのった助走から力強い両足での踏切、着手位置、膝を曲げて着地することを常に意識した指導を行うことが大切になってくる。

4 児童の実態

(1) 運動の特性に触れる楽しさの体験状況

本学級の児童(男子14名、女子10名、計24名)は、運動が好きな児童が多く、昼休みもボール運動遊びなどを好んで行っている。しかし、一部の児童は、運動することに対して消極的であり、外遊びを好まない児童もいる。

5年生の体育の学習では、体づくり運動やベースボール型ゲーム、浮く・泳ぐ運動、ハードル走を行ってきている。ハードル走では、50m走の記録をもとに個人の目標記録を設定し、それに挑戦し、達成できた楽しさ、ベースボール型ゲームでは、チームで協力しながら、多くの得点を得ることを競い合う楽しさを味わう活動を行ってきた。これまでの学習の中で、友達の記録の伸びと一緒に喜んだり、チームで協力して勝つことができるようになったりした時にみんなで一緒に喜んだりすることができ、友達との関わりで運動する楽しさを感じている児童も多いと言える。

(2) 態度、思考・判断に関する学習体験状況

児童はこれまでの学習において、自分の課題に合った場や用具を選んだり、練習方法を選んだりするという学習を行ってきている。水泳の学習では、泳ぎの課題に気付き、自分でコースを選んで練習する課題別学習を行ったり、ハードル走の学習では、自分に合ったインターバルを見付けて記録に挑戦したりするなどの活動を行ってきている。自分の力に合った場や用具を選ぶことや動きのポイントを知ることの大切さを理解することはできているが、自分の課題に合っためあてをもったり、適切な課題解決の方法を選んだりする力はまだ十分身に付いていない。また、友達同士で適切なアドバイスを行うなどの学び合いについては、十分深めることができず、今後の課題と言える。また、態度面においては、勝敗へのこだわりが強く、負けを認めることができない児童も多く、指導を行うことが必要である。

(3) 技能の習得状況

児童はこれまでに、跳び箱運動において開脚跳びや台上前転、大きな開脚跳びやかかえこみ跳び

に挑戦している。開脚跳びに関しては、4年時において、全児童が4段以上の跳び箱で跳ぶことができるようになっており、台上前転についても8割以上の児童ができるようになっている。

しかし、4年時では、発展技であった大きな開脚跳びやかかえこみ跳びについては、できるようになった児童は少なく、5、6年時の取組が課題となってくる。

(4) 体力の状況

今年度実施した体力テストにおける体力（総合評価）の状況は以下の通りである。

A 段階		B 段階		C 段階		D 段階		E 段階	
9人		8人		4人		3人		0人	
男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
6人	3人	4人	4人	2人	2人	3人	0人	0人	0人

体力テストの結果から見ると、A・B段階児童が70%を超えており全体的に体力が高いと言える。しかし、体力テストの結果から筋力はTスコアで50以下となっており、体力が十分高いとは言えない。また、これまでの体育の学習から自分の体を支持する力や体を移動させる動きは十分身に付いておらず、基礎感覚を高める運動でしっかりと身に付けさせる必要がある。

(5) 児童の運動に対する思いや願い

本単元の学習を進める上で、体育に関する意識調査を行った結果は以下の通りである。

調査事項	好き (楽しい)	どちらかといえば好き (楽しい)	どちらかといえば嫌い (楽しくない)	嫌い (楽しくない)
★ 体育の学習は好きですか。	22	2	0	0
★ 跳び箱運動は好きですか。	21	3	0	0

ほとんどの児童が、跳び箱運動が好きと答えている。ただ、どちらかといえば好きと答えている児童は、「怪我がこわい」「技がなかなかできるようにならないから」という理由で好きとは言えないということも分かった。跳び箱運動が好きと答えている児童は、「技ができたときが嬉しい」「挑戦することが楽しい」という理由が多く、できることへの喜びを感じている児童が多いと言える。「きれいに跳ぶことができるようになりたい」「もっと高い跳び箱が跳べるようになりたい」という児童の願いから跳び箱運動に必要な基礎感覚をしっかりと身に付けさせたり、練習する時間を十分に取入れたりしながら学習を進めていきたい。

5 学習を進めるに当たって

そこで本単元では、児童一人一人がめあてをもって学習に臨み、自分の課題に合った場を選んで練習することで、できる喜びを味わえるようにする。技に挑戦できる易しい場を設定することで、恐怖心を取り除いたり、自分の伸びが実感できたりするようにし、楽しみながら学習ができるようにする。

はじめの段階では、オリエンテーションを1時間設定する。オリエンテーションでは、映像を活用し、児童に技のイメージやゴールイメージをもたせるようにする。また、単元計画表を活用し、学習のねらいや進め方を理解し、学習の見通しをもたせるようにする。跳び箱運動は、大怪我に直結しやすい運動でもあるため、安全に行うことの大切さを学習の約束などを通して十分に掴ませ、安全に効率的に活動に取り組めるようにする。

展開では、授業の始めに、必ず児童の技能の習得を図るための基礎感覚づくりやめあてを設定する時間を取り入れる。基礎感覚づくりでは、あざらし、うさぎ跳び、ステージへの跳び上がりなどを行わせ、支持感覚や踏切感覚、体重移動感覚を身に付けさせる。次に、学習のめあてを立てさせる。めあてを立てる際には、学習課題、学習内容、動きのポイントを学習カードを活用して確認し、一人一人が自分に合っためあてを立てられるようにする。自分に合っためあてをもつことで技のポイントへの意識が高まったり、課題解決をしたりしようと思えることができる。技のポイントについて

は、具体的に短い言葉でおさえるようにすることで、学び合いの具体的な言葉かけにつなげていきたい。また、上手にできている児童や伸びが見られる児童を取り上げ、その動きのよさを見ることで、ポイントを確認したり、友達のよさに気付かせたりする。授業の最後には、振り返りを行い、技の達成状況や課題をしっかりと捉えさせるようにして、次時につなげていくようにする。

単元前半のねらい1では、基本的な技の習得や技を安定してできるようにすることをねらいとし、ポイントを確認しながら学習を進めていく。安全に効率的に運動が取り組めるように場の設定を工夫し、自分に合った場を選択できるようにする。易しい場を設定することで、跳び箱への恐怖心を少しでも和らげたり、小さなできるを積み重ねることで、自分の伸びを感じることができるようになる。

単元後半のねらい2では、授業の前半は、「できる技をみがく」ということで、跳び箱の高さに挑戦したり、技の美しさ（踏切位置、空中姿勢、着地位置）を磨いたりすることをねらいとして学習を行っていく。授業の後半では、「できそうな技に挑戦する」ということで、工夫された場でできそうな技に挑戦し、できる技を増やしていくことをねらいとして学習を進めていく。児童の様子を見ながら漸増的に課題選択学習を取り入れていくようにしていきたい。

6 単元の評価規準（●第5学年 ・第6学年 ◎共通）

	運動への関心・意欲・態度	運動への思考・判断	運動の技能
単元 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 技を高める楽しさや喜びに触れることができるよう、跳び箱運動に進んで取り組もうとしている。 ・ 約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしている。 ● 器械・器具の準備や片付けで分担された役割を果たそうとしている。 ● 運動する場を整備したり、器械・器具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 課題の解決の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習の場や方法を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 自分の力に合った安定した基本的な支持跳び越し技、及びその発展技ができる。
学 習 活 動 に 即 した 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ① 技ができたり、高めたりする楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで運動に取り組もうとしている。 ② 器械・器具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 ③ 運動する場を整備したり、器械・器具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 課題解決の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習の方法や場を選んでいる。 ② 自分が取り組む技のポイントを知り、技ができるようになるための運動の行い方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 安定した開脚跳びでは、助走から踏み切り・着手・着地まで一連の動きとしてスムーズに跳び越えることができる。 ② かかえ込み跳びでは、助走から両足で踏み切って着手し、脚を抱え込んで跳び越しをすることができる。 ③ 安定した台上前転では、助走から回転して着地まで、一連の動きとしてスムーズに跳び越えることができる。

8 本時の学習（4 / 7時間）

(1) 本時の目標

○ 助走から両足で踏み切って着手し、脚を抱え込んで跳び越しをすることができる。(技能)

(2) 本時の評価項目

○ 助走から両足で踏み切って着手し、脚を抱え込んで跳び越しをすることができる。(技能)

9 指導過程

段階 (分)	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	評価項目 【Aの例】 (評価方法)	「努力を要する」 状況と判断される 児童の手立て
はじめ 12分	<p>1 準備運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 準備運動 ○ 基礎感覚を高める運動 <p>2 本時の学習課題の確認し、めあてを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>跳び箱運動を楽しみながらかかえこみ跳びができるようになるう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ めあて <p>3 場づくりをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の動きを確認しながら助言を行い、一つ一つの運動を丁寧に確実にに行わせるようにする。(T1、T2) ○ かかえ込み跳びにつながる運動を行わせるようにする。 ○ 全体の学習課題・学習内容・動きのポイントを確認することで、学習の見通しをもたせ、自分のめあてをより具体的に立てることができるようにする。(T1) ○ 安全面に気を付けながら準備させるようにする。(T1、T2) 		
なか 23分	<p>4 工夫された易しい場でかかえ込み跳びの練習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ステージへの跳び上がりの場 ② ゴムを使った場 ③ ステージへの跳び降りの場 ④ セーフティマットを使った場 ⑤ 普通の間 (横→縦) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全面への配慮として、始めに開脚跳びや跳び箱への跳び乗り、跳び下りをさせてから技に取り組みさせるようにする。 ○ いくつかの易しい場を準備し、自分の今の力に合った場を選んで練習することができるようにする。必要に応じて自分たちで場づくりを工夫させるようにする。 ○ 練習する時間を十分に確保し、できる喜びを味わうことができるようにする。 また、スモールステップのできた児童については大いに称賛する。 ○ 上手に跳んでいる児童や技ができるようになった児童を取り上げ、そのよさに気付かせたり、友達の頑張りに称賛を送ったりすることができるようにする。(T1、T2) ○ 技ができる児童には、より美しく(空中姿勢、着地)大きく(踏切位置、着地位置を遠く)技ができるように助言をするようにする。 ○ 安全面に十分留意し、終わった後に合図を出すことや場を横切らないことなどを徹底して行わせるようにする。(T1、T2) ○ 順番を待つ児童は、後方に並ぶのではなく、跳び箱の横について補助を行ったり、ポイントについてのアドバイスを行わせたりすることができるようにする。 	<p>【Aの例】 縦の跳び箱でかかえ込み跳びができる。(観察・学習カード)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・易しい場をつくって段階的に練習できるようにする。 ・恐怖心を軽減させるためにセーフティマットを活用するなど工夫する。
まとめ 10分	<p>6 学習の振り返りを行う。</p> <p>7 後片付け</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ めあてに対する成果と課題を振り返らせる。成果と課題は、自分の段階やなぜ達成できないかをしっかりとカードに書かせるようにする。(T2) ○ 全員で協力して安全に留意しながら後片付けを行うように指示する。(T1、T2) 		

